

ロボット開発に携わる企業

その4 バンダイ

あさの じゅんや
浅野 純也 (ライター)
junya@sepia.ocn.ne.jp



バンダイの Toy Robot のキーマン・戦略開発室デビュティゼネラルマネージャーの芳賀さん。アイデアマンでも知られる。

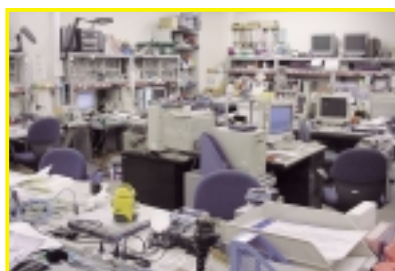
オモチャの枠組みを超えたスペックで高い評価を得ている「BN-1 わがままカプリコ」や「ワンダーボーグ」など独自の Toy Robot 路線を展開しているバンダイが今回の取材先。何しろ「ロボット研究所」があるというからワクワク度も高いというもの。何しろ大メーカーであれ大学の研究所であれこの看板を掲げているところはほんのわずか。ちなみにそのロボ研は秋葉原の一角というロボット研究にはピッタリなロケーション。面白い話と面白いモノが盛りだくさんの取材になった。

ロボットのバンダイ?

ロボコンマガジンの読者ならバンダイという会社には少なからず世話になったことがあるに違いない。それが変身ベルトなのか超合金なのかガンプラなのかカードダスなのか、あるいはたまごっちなのかスーパーロボット大戦なのか VARSX なのかは人それぞれだが。

言うまでもなくバンダイは玩具メーカーだ。特にキャラクター商売が上手く、ガンダムを始めとするサンライズ系のヒーローロボットやいわゆる戦隊モノ、変身ヒーローモノは有名だ。米国でいまだに人気を博している「パワーレンジャー」は戦隊モノのリメイクだし、ガンダムの世界的な展開も始まっており、バンダイのキャラクターは世界的な広がりを見せている。

だからというわけではないが、同社はロボットとも関係が深い。本誌でもおなじみの「ワンダーボーグ」と「BN-1」はオモチャの枠を超えた本格的な自律ロボットだし、最近では「ピチピチゴンザレス」というヒット商品もある。玩具業界はここ数年のロボットブームに乗ったかたちでいわゆる Toy Robot を数多く発売しているが、その中であってバンダイの取り組み他社とはやや異なっているようにも見える。今回はそのあたりを含めて、同社のロボット Toy 開発の中心となっている「バンダイロボット研究所」を訪ねて話をうかがった。



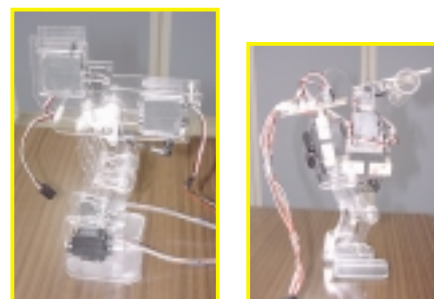
ロボット研究所大公開！フツのオフィスに見えるが、あちこちに工具があり、モニタの上にはそれぞれに好きなフィギュアが置かれている。よく見るといろんなロボットが見える？

ロボット研究所は Web 上の名前

ロボットだけでなくたくさんのキャラクター商品を持つ同社には、同じくたくさんのリンクページがある（たとえばたればんだのページとかセーラームーンのページとか）、その中のひとつに「バンダイロボット研究所」(<http://www.roboken.channel.or.jp/>)がある。ワンダーボーグや BN-1 のページは別にあるのに、だ。ここには BN-1 の開発レポートやバンダイ以外のロボット情報もあつたりして本誌読者にもぜひ訪れて欲しいサイトなのだが、実はこのページ、当初は会社にナイショで始めたものだという。

「今の戦略開発室で作ったもので、会社のとある部署はこういうページがあるって知らなかったんですね。でも最近は会社のイメージ統一といういろいろあって、一時期問題になったんですよ」と、笑いながら話してくれたのは同社戦略開発室のデビュティゼネラルマネージャーである芳賀

義典さん。本誌にもたびたび登場しているし、Toy Robot 界では有名な人だ（ちなみにデビュティというのは「副」という意味で、日本語にすると副本部長とか部長代理という立場になるエライ人でもある）



歩行ロボットも数パターンを研究している。

今ではバンダイのホームページからリンクもされているし、名称もそのまま残っているので、会社からのオトガメはなかったようだが、「ロボット研究所」をインターネットの中とはいえ勝手に立ち上げてしまうところに芳賀さんを始めとする「ロボ研」の意欲が見て取れる。



パソコンに接続して動きを制御する「ロボパル」も芳賀さんが手掛けたが「まったく売れませんでした」と苦笑い。発想が早すぎたとも言える。

というわけで名刺にロボット研究所と書いてあるわけではなく、正式には戦略開発室というのが正解。ロボ研はあくまで Web